

図2 麻疹(はしか)とはどんな病気か

- 感染力の強さ
 - ・ 基本再生産数 (R_0) = 12~18
 - ・ インフルエンザの約10倍の感染力
 - ・ 空気感染・飛沫感染・接触感染
 - ・ 家庭内密接接触での二次発症率は約90% (CDC Pink Book)
- 潜伏期間・周りへの感染可能期間
 - ・ 感染から発症まで 7~21日 (平均10~12日)
 - ・ 発症の1日前から発熱後3日を経過するまで感染力あり
 - ・ 症状がなくても他者に移す期間がある
- 誰がかかりやすいか
 - ・ ワクチン未接種・接種歴不明の方
 - ・ 1回のみ接種 (2回未完了) の方
 - ・ 過去に罹患歴のない成人
 - ・ 1歳未満の乳児 (母親の免疫が弱まった場合)

ポスター① 麻疹感染拡大しています

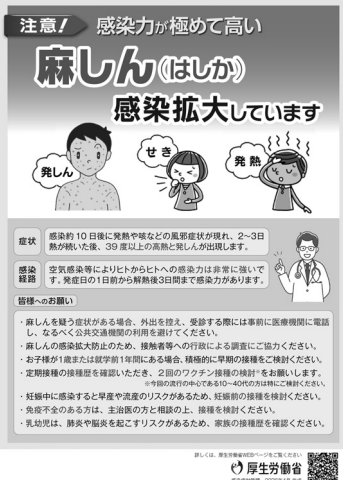


図1 麻疹の主な症状



図3 麻疹の臨床症状

第1~4病日：カタル期
38~39℃の発熱、鼻水、咳、結膜炎
この段階が最も感染力が高い時期です。風邪と見分けが付きにくく、特徴的な口の中の白い斑点 (コプリック斑) が2~3日間だけ現れます。
第4~5病日：発疹期
高熱 (40℃前後) と全身への発疹拡大
耳の後ろ・顔から始まる赤い発疹が、体幹・四肢へと広がります。発熱が再上昇し、この時期が最も体調が悪くなります。
第7~10病日：回復期
発疹の消退と解熱
合併症がなければ徐々に回復しますが、麻疹ウイルスは感染後に既存の免疫記憶細胞を破壊するため、免疫機能の低下が数週間~数ヶ月続きます。これを免疫健忘 (immune amnesia) といい、回復後も他の感染症にかかりやすくなることが知られています。

図4 麻疹の重篤な合併症

⚠ 重篤な合併症 (軽視できません)
△ 肺炎 (麻疹肺炎) : 入院を要することが多く、特に乳幼児・免疫不全者で重症化しやすい
△ 脳炎 (麻疹脳炎) : 約1,000人に1人に発症。後遺症として知的障害・麻痺が残ることがある
△ SSPE (亜急性硬化性全脳炎) : 数年後に発症する致死性の脳炎。1歳未満の罹患で発症率が高い
△ 中耳炎 : 頻度が高い合併症。難聴につながることも
△ 角膜炎・失明 : 栄養状態が悪い場合に特に多い
△ 死亡 : 先進国でも1,000~2,000人に1人程度。発展途上国ではさらに高い

し、診断を行います。

△ 「一度かかれば免疫ができる」は昔の話

感染による自然免疫は終生免疫をもたらしますが、その代償として重篤な合併症や死亡のリスクがあります。ワクチンは安全・確実・低コストで予防できる現代医学の産物です。子どもが接種を受けられるかどうかは、保護者の方の判断にかかっています。

図9 「一度かかれば免疫ができる」は昔の話

◆ 「二度罹れば免疫が出来る」は昔の話 (図9)

感染による自然免疫は終生免疫をもたらしますが、その代償として重篤な合併症や死亡のリスクがあります。ワクチンは安全・確実・低コストで予防できる現代医学の産物です。子どもが接種を受けられるかどうかは、保護者の方の判断にかかっています。

小田原市休日夜間急患診療所

休日や夜間に急に発症した方の診療を目的とした一次救急の医療機関です。軽症の患者様を対象としていますので、症状によっては、重症患者様を受け持つ「二次救急病院」へ受診していただくことになります。応急処置を目的としていますので、受診後はかかりつけ医を受診するなど適切な医療を受けてください。

〒256-0816
神奈川県小田原市海泊2-32-16
☎0465-47-0823 駐車場 (第1~4) あり
<https://www.odawara.kanagawa.med.or.jp/nighttime/>

5月	日	月	火	水	木	金	土
						1	2
						12:00~15:00 小児科	
3	4	5	6	7	8	9	10
					13:30~16:30 耳鼻科	14:30~16:30 産婦人科	
10	11	12	13	14	15	16	
			13:00~14:00 内科	13:30~14:30 内科	14:30~15:30 腎臓内科		
17	18	19	20	21	22	23	24
	13:30~14:30 内科	14:30~15:30 内科	15:30~16:30 小児科	16:30~17:30 精神科			
24	25	26	27	28	29	30	
		13:00~14:00 内科	13:30~14:30 内科	14:30~15:30 内科	15:30~16:30 皮膚科	16:30~17:30 神経内科	
31							

6月	日	月	火	水	木	金	土
7	8	9	10	11	12	13	14
		13:00~14:00 内科	14:00~15:00 整形外科	15:00~16:00 小児科	16:00~17:00 小児科		
14	15	16	17	18	19	20	21
		13:30~14:30 内科	14:30~15:30 精神科	15:30~16:30 内科	16:30~17:30 内科		
21	22	23	24	25	26	27	28
		13:00~14:00 内科	14:00~15:00 内科	15:00~16:00 内科	16:00~17:00 皮膚科	17:00~18:00 皮膚科	
28	29	30					
		13:30~14:30 内科					

小田原医師会より住民の方々へ

〈左記の問合せ先〉

小田原医師会地域医療連携室 ☎0465-47-0833

月曜~土曜 (日曜、祝・休日、12/29~1/3休み)
午前9時~正午/午後1時~午後5時

医療機関検索は
小田原医師会のサイトから利用できます

<https://www.odawara.kanagawa.med.or.jp/>

連載 いのちひろば (98)

毎月1回、中旬の水曜日に掲載

今月のひとこと

麻疹感染予防策で最も重要な対策は、1歳以上で2回麻疹含有ワクチンを接種した人が学校・職場等の集団で100%になるよう目指してください。

現在流行する麻疹への感染対策について



遠藤 徳之 院長

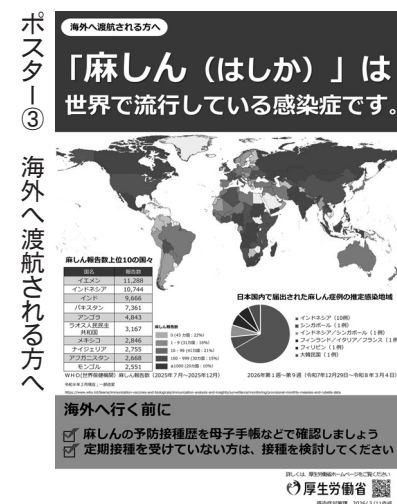
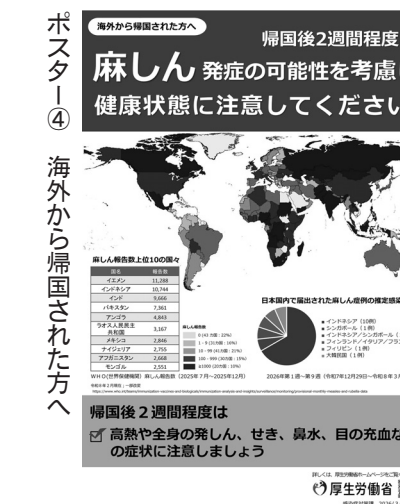
現在流行する麻疹への感染対策について

えんどうのりゆき 1969年小田原市生まれ。静岡聖光学院高等学校卒。杏林大学医学部卒、順天堂大学小児科入局。山梨県立中央病院、日野市立総合病院、多摩南部地域病院を経て平成16年医療法人社団浜町小児科医院。平成23年度より小田原医師会理事に就任。資格は、小児科専門医、インフェクションコントロールドクター認定医、日本医師会認定健康スポーツ医。

◆ 麻しんってどんな病気なの？

感染すると約10日後に発熱や咳、鼻水、目の充血といった風邪のような症状が現れ2~3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現します。(図1・図2・図3)

肺炎、中耳炎を合併しやすい、1000人に1人程度の割合で脳炎が発症します。死する割合も、先進国であっても1000人に1人とはいわれています。(図4)



ポスター② 麻しんを疑った際の対応

麻しんを疑った際の対応

麻しんを疑った際の対応

麻しんを疑った際の対応

◆ 麻しんを疑ったらどうする？ (ポスター②③④)

全身性発疹・高熱・カタル症状(咳・鼻水・結膜炎)・流行地滞在。以上に当てはまると、疑いが濃厚です。麻しんは感染症法五類感染症(全数把握対象)です。診断した医師は直ちに保健所に届け出る義務があります。受診の際は「麻しんの可能性がある」と伝え、他の患者と接触しないよう隔離された場所で診察を受けられるよう配慮を求めてください。

図5 麻疹の治療について

基本的な対処

- 十分な安静と水分補給
- 発熱に対する解熱剤(アセトアミノフェン)
- 栄養管理(特にビタミンA補充が重要)
- 咳・鼻水などへの対症療法

入院が必要なケース

- 高熱・脱水が続く場合
- 肺炎・呼吸困難を合併した場合
- 脳炎の兆候(意識障害・けいれん)
- 乳幼児・免疫不全者・妊婦の重症例

△ 二次感染(細菌性合併症)の治療

麻しんによる免疫力低下で細菌性肺炎・中耳炎などの二次感染が起こった場合は、抗菌薬が使用されます。しかし、最善の対策は感染そのものをワクチンで予防することです。

◆ ワクチンによる予防が最善の対策です

1回接種で約93%、2回接種で97~99%の予防効果が期待できます。麻しんの流行を防ぐには、集団全体のワクチン接種率を95%以上に維持することが必要です。(図7)

2024年度は流行防止に必要な95%を下回っており、低下傾向が続いています。(図8)

MRワクチン(麻しん・風しん混合)の2回接種で、ほぼ確実に予防できます

1回接種で約93~95%、2回接種で97~99%の予防効果があります。麻しんの流行を防ぐには、集団全体のワクチン接種率を95%以上に維持することが必要です。

定期接種 第1期

1歳になったら速やかに

母親からの移行抗体が消えるこの時期が最初の接種機会です。1歳の誕生日後、できるだけ早く接種しましょう。

定期接種 第2期

就学前の1年間(小学校入学前年度)

1回目で免疫が十分につかなかった場合の補充・強化が目的です。この機会を逃さず、必ず2回接種を完了させましょう。

定期接種を受けぬ方

気づいた時点でかかりつけ医に相談を

定期接種の機会を逃しても、接種は可能です(任意接種・自費)。接種歴が不明な場合も、追加接種に大きな問題はありませぬ。

緊急接種(帰国後予防)

感染者と接触後72時間以内

麻しん患者と接触した可能性がある場合、72時間以内のワクチン接種で発症を防ぐ可能性があります。

図7 ワクチンによる予防が最善の対策

◆ 麻しんを疑った場合の検査のタイミング

PCR検査

検査は発現後7日以内に尿・鼻咽喉頭・血液の3検体を採取し、検査します。

IgM抗体検査

検査は発現後4~28日に行います。

検査実施のタイミング

検査方法	特徴	タイミング
PCR検査(尿・鼻咽喉頭・血液)	最も感度・特異度が高い確定診断	発症後1~7日
IgM抗体検査(血清)	感染から間もない時期に陽性	発症後3~28日
IgG抗体価(ベア血清)	回復期に倍以上の上昇で確定(EIA法など連続値で示される測定値の場合)	急性期と回復期の2回採血

表1 検査実施のタイミング

小田原市休日夜間急患診療所

休日や夜間に急に発症した方の診療を目的とした一次救急の医療機関です。軽症の患者様を対象としていますので、症状によっては、重症患者様を受け持つ「二次救急病院」へ受診していただくことになります。応急処置を目的としていますので、受診後はかかりつけ医を受診するなど適切な医療を受けてください。

〒256-0816
神奈川県小田原市海泊2-32-16
☎0465-47-0823 駐車場 (第1~4) あり
<https://www.odawara.kanagawa.med.or.jp/nighttime/>

5月

日	月	火	水	木	金	土
						1
						12:00~15:00 小児科
3	4	5	6	7	8	9
					13:30~16:30 耳鼻科	14:30~16:30 産婦人科
10	11	12	13	14	15	16
			13:00~14:00 内科	13:30~14:30 内科	14:30~15:30 腎臓内科	
17	18	19	20	21	22	23
	13:30~14:30 内科	14:30~15:30 内科	15:30~16:30 小児科	16:30~17:30 精神科		
24	25	26	27	28	29	30
		13:00~14:00 内科	13:30~14:30 内科	14:30~15:30 内科	15:30~16:30 皮膚科	16:30~17:30 神経内科
31						

6月

日	月	火	水	木	金	土
7	8	9	10	11	12	13
		13:00~14:00 内科	14:00~15:00 整形外科	15:00~16:00 小児科	16:00~17:00 小児科	
14	15	16	17	18	19	20
		13:30~14:30 内科	14:30~15:30 精神科	15:30~16:30 内科	16:30~17:30 内科	
21	22	23	24	25	26	27
		13:00~14:00 内科	14:00~15:00 内科	15:00~16:00 内科	16:00~17:00 皮膚科	17:00~18:00 皮膚科
28	29	30				
		13:30~14:30 内科				